|  |  |
| --- | --- |
|  | 小千谷旅する案内帳「千の谷の物語と雅色の郷　小千谷」 |

国登録有形文化財（建造物）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　曹洞宗　潮音寺

ガイド案内

* 曹洞宗の寺。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　潮音寺山門は、国土の歴史的景観に寄与していることで文化財に登録。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　山門の形式は一間一戸四脚門で、切妻造桟瓦葺平入となる。　組物は袖柱上４か所が三斗組となり、親柱条は拳鼻付きの詰組を置き、親柱間には中備えを配さない。彫刻は若葉や渦紋、玉などが細部まで施されている。彫刻絵様から１８世紀末の建築と判断される。建築の工法は地域における伝統的な技術を伝承するものとなっている。
* 観音堂は、造形の規範となっていることから文化財に登録。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　形式は正面柱間３間、側面３間、正面向拝１間向唐破風付で、全体としては、入母屋造桁入、金属板葺とするものである。組物は三手先で霊鳥や霊獣の彫刻を付す。内陣は中央間背面壁際に須弥壇を構え、両脇にも造り付け壇を排紙て十二羅漢を安置する。寺に保管されている棟札および、内陣の奉納札に文化14(1817)年の銘があることから建築年代が判断される。また、宮殿（厨子）には文政4(1821)年の墨書があり、建物の建築後に宮殿が造られたと判断できる。　建築の工法は地域における伝統的な技術を伝承するものとなっている。

メモ